

下肢静脈瘤が日帰りで治療できるようになったと聞きました。ぜひ治療を受けたいのですが、治療までにどのような検査が必要でしょうか。

岡山市 46歳 主婦

下肢静脈瘤は、血液が心臓に戻るために大切な静脈にある弁が壊れて起きます。「どの弁が壊れているか?」。これを調べるのが治療の第一歩です。以前はX線を利用した静脈造影などを行っていましたが、超音波検査法が発達したおかげで、まったく体に影響のない検査だけで多くの情報が得られます。

次に重症度(逆流する血液の量)を調べます。この検査は空気プレチスモグラフィを用いて行います。風船ブーツの中に脚を入れて立ち上がり、増加する脚の体積をコンピュータで計算します。逆流量が多いほうが重症で、1秒間に脚が膨らむ量が数字で出ます。

これらの検査は、入院の必要はなく約30分程度で終わります。もちろん、まったく痛みはありません。しかも、この二つの検査で治療法を選択する適切な情報を得ることができます。

治療の方針と治療日が決まれば、後は安全に治療を行うために血液検査、心電図、胸部レントゲン写真程度は必要だと思えます。

下肢静脈瘤の治療をお望みの方は、お気軽に専門の医師にお問い合わせください。



回答医師
しよこく 諸國 眞太郎 先生

Profile

医療法人操仁会 岡山第一病院 院長
1981年岡山大学医学部卒業、同第二外科に入局。1994年岡山大学附属病院講師。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。2000年より現職。「下肢静脈瘤日帰りセンター」[Vascular Lab]に積極的に取り組んでいる。

岡山市高屋343 TEL086-272-4088
U R L : <http://www.okayama-dalichl.jp>
e-mail: Info@okayama-dalichl.jp